

# 森づくり最前線

埼玉森林管理事務所 大滝森林事務所 森林官 神谷 寛喜



シカによる剥皮被害を受けたヒノキ林



シカ防護柵の設置作業

最近ではカラマツまでも食害被害が出始めています。毎年、猟友会でシカ捕獲を行っていますが、シカは増え続け、キノコ、トリカブトまでもが採食草の対象となり、「食べられるものは全て食べ尽くす。」といったような勢いです。

来年度新植を予定している皆伐跡地周辺にもシカ食害が見受けられ、植付けしたヒノキ苗はシカの餌場になりかねないことから、今秋、地拵（約7畝）と併せてシカ防護柵1950㍍を設置しました。植栽後は定期的に、シカ防護柵の網を破って大切な苗が食べられていないか周囲の点検作業が待っています。

うれしいこともあります。地元中学生を対象とした社会体験学習で、7月から8月にかけて、秩父市内の中学校の1、2年生が、当森林事務所管内にある大河俣沢（おおがまたさわ）の大カツラの看板や保全



源流を上った大カツラの保全ロープ設置に「ガッツポーズ」

当森林事務所は、荒川の源流が流れる埼玉県西部の秩父市大滝地区に位置し、標高2483㍍の三宝山を最高に、2000㍍を超える嶺々に囲まれた、約9800㍍の国有林を管理しています。

都心から比較的近く、日本百名山の両神山や甲武信ヶ岳から東に、埼玉県と山梨県とを画する尾根が伸び、標高おおむね2000㍍級の尾根には、破不山（2318㍍）雁坂嶺（2289㍍）笠取山（1953㍍）大洞山（別名飛龍山2077㍍）雲取山（2017㍍）など、針葉樹林と草原の織りなす静かな山々があり、春から秋、特に夏に登山する人が多い状況です。

また、中津峡、別名中津川渓谷ともいわれる標高約600㍍の場所に位置する全長10㍍㍍、断崖の高さ100㍍の浸食された深いV字状の渓谷は有名な紅葉スポットとしても知られており、多くの登山者や観光客が訪れています。

一方、最近の登山ブームで軽装備で登山するハイカーも多く、毎年、遭難者や事故が多発しています。

造山運動と浸食が同時に進行してきた秩父山地の地形は急峻で、今年度実施した20㍍の収穫調査箇所も平均傾斜45度以上、きついところは70度以上もあり、しっかり地面を踏ん張って、「石落とすぞ」と声を掛け、危ない石を落としながら調査を行ってきました。

この急峻な山を、ニホンシカなどが闊歩し、大切に育ててきたスギやヒノキ、



ボランティアによる笠取山周辺の保護ネット設置も5回目の実施となった

ある大河俣沢（おおがまたさわ）の大カツラの看板や保全ロープの取り替え、樹名板の設置などに一緒に汗を流してくれました。カツラの大きさや葉の匂い、自然の不思議さに興味を持ってもらうことができ「将来は森林管理事務所で働きたい。」と感想を書いてくれたことです。

こうした取組を通じ、秩父の豊かな自然を守り、多くの人々に国有林の大切さを理解してもらえるよう業務に取り組んでいきたいと思っています。